

証言集 セクトと背教

—C・アルボルノス『功績報告書』の証言から見るタキ・オンコイ、ワカ、偶像崇拜—

愛知県立大学外国語学部ヨーロッパ学科スペイン語圏専攻

谷口智子

クリストバル・デ・アルボルノスの『功績報告書 (Información de servicios)¹』は、植民地初期ペルーにおいて先住民の間に熾火のように広まった反スペイン的な宗教運動「タキ・オンコイ」に関する第 1 級の記録である。先住民の背教を暴き、キリスト教化するというミッションの目的と植民地支配が一体化していたため、アルボルノスのようなスペイン人の一司祭が植民地アメリカで立身出世するためには、「タキ・オンコイ」のような背教的なセクトの出現が必要だった。彼は最終的にはクスコ司教代理まで出世していったが、それは「タキ・オンコイ」のような異教のセクトの発見（実は彼が第一発見者ではなくオリベラ神父であるが）と、それを鎮めるための様々な方策について、アルボルノスが大変な労力を費やしたという根拠となる『功績報告書』があったからだ。ではここで「セクト」もしくは「背教」と書かれた「タキ・オンコイ」とは一体どのようなものであろうか。詳細は別の論考においてすでに論じているのでそれを参照されたい。本論は、三度にわたって書かれた『功績報告書』（1570 年、1577 年、1584 年）から、30 人の証人の証言のみを史料として纏めることにする。なお、これらの証言の質問文についても、別の論考ですでに論じているのでそれを参照されたい。

『功績報告書』〔1570 年、ワマンガ市〕²

●証言 1 ディエゴ・ガビラン Diego Gavilán

〔司祭クリストバル・デ・アルボルノス Cristóbal de Albornoz, clérigo presbítero は〕この諸管区の先住民たちの間にセクトと背教 *la seta e apostasía* を発見した。先住民らの間でタキ・オンゴ *Taqui Ongo* として守られてきたもので、またの名をアイラ *Aira* と言う。先住民の多くが教えを広め、神も、聖なる戒律も信じず、十字架も聖像も崇めず、教会にも立ち入らず、司祭らにではなく彼らに告解するよう、インカの時代に即し、或る数日或る断食をするよう、彼らを崇め、持ち物を供えるよう命じていた。その者らは、先住民らが所持し、崇めていたワカ *las guacas* の名を語り説教していた。またその巡察でクリストバル・デ・アルボルノスが、先住民らが行った多くの悪習や近親婚、我らの主たる神への奉仕に抗う多くの忌まわしいことを暴いたことはよく知られている。前述のセクトの教えを広めたいへん多くの先住民がいた。他の先住民らは老若男女問わずそのことを信じ、その墮落を目にするのは大変嘆かわしいことだった。クリストバル・デ・アルボルノスは、自らの巧知によってそれを暴き、跡形もなく燃やした。（質問 4 への回答。以降番号

のみ表記。)

クリストバル・デ・アルボルノスが、先住民らに対して行った巡察において、かなりの数のワカと祭壇を暴いたことは、この町でよく知られている。先住民らがモチャした〔礼し崇めた〕ものだった。私の伝聞したところでは、2万以上にもものぼるワカだと思う。金銀、衣服や家畜、トウモロコシやチチャ、ワカのために取っておいたその他の物、多くの無分別な物をワカに供えていた。クリストバル・デ・アルボルノスは慈悲をもってワカの罪を罰した。自らの悔い改めを願い、先住民らは応じた。彼はそれらのワカを焼いた。以来、多くのインディオらがたくさんのワカや祭壇を見せに来るのを私は目にした。(6)

私がこの町の諸管区にて所領するエンコミエンダのレパルティミエントにいる先住民らへの巡察において、クリストバル・デ・アルボルノスは、先住民らの改宗へ向けた多くの行列を行った。犯した罪を訴え出た者らは、涙を流しつつ、裸で、自らを鞭打ちながらやって来た。巡察使クリストバル・デ・アルボルノスに、彼らの過ちへの慈悲を乞うためであった。クリストバル・デ・アルボルノスが巡察したワマンガ市の諸管区にある他のレパルティミエントにおいても同様であったと思う。(7)

クリストバル・デ・アルボルノスがワマンガ市の諸管区にてなした優れた巧知によって、神によって、前述の先住民たちやこの王国の他の者の間のセクトと背教は根絶された。ヘロニモ・マルティン神父〔巡察に同行した通訳〕は私にそのことを手紙で知らせた。(12)

●証言 2 バルタサール・デ・オンティベロス Baltasar de Hontiveros

彼はタキ・オンゴ、またの名をアイラというセクトと背教を発見した。これは先住民の間でかなり根付いており、彼らの間で守られ、また先住民の間で公然と明らかにされていた。彼らはキリスト教の神を信じず、十字架も聖像も崇めず、教会に入ることもなく、聖職者や修道士に告解も行わず、彼らに告解するよう、インカ族の時代の祭礼や儀式に合う週の幾らかの日に断食を行い、金や銀、衣服を伴い、祭壇やその他のものを備えたワカに捧げものをするなどしていた。これは主なるイエス・キリストへの大きな侮辱において、全てを犠牲にしていたのだ。クリストバル・デ・アルボルノスは、彼の優れた術策と明敏さ、賢明さとキリスト教精神をもってそれを暴き、さらに彼らが主なるイエス・キリストに対して犯していた多くの悪徳、肉欲、罪をも明らかにした。かなりの数の先住民がセクトや背教に改宗しており、残念なことに墮落がみられた若年の男女と同じくまた老人たちもそうであった。これは、私の家にもそれを信じる先住民の若い女性がいることから推測される。(4)

私は、クリストバル・デ・アルボルノスが自らの行った巡察において、多くの過ちを犯した数多くの罪人を公表したということを知った。ここには、兄弟らと、母親らと、さらには他の近親婚についても同様に含まれた。これらの罪は、多くの呪術師、予言者、及びそれを行うよう理解させていた人物らによって、先住民らの間で為されていたものであつ

た。(9)

●証言3 アマドール・デ・カブレラ Amador de Cabrera

これは彼らや彼らの多くがタキ・オンゴとして守っていたもので、またの名をアイラと呼ぶ。特にチョコルロス [チョコルボス]、ソラス、ルカナス、その他の地域のレパルティミエントにて、前述のセクトについての偶像崇拜者らは説教を行い、先住民らに神を信じないよう、聖像や十字架をあげめないよう、また教会には入らないよう告げていた。私が聞いたところによれば、彼らの儀式や儀礼にて、主なるイエス・キリストへの奉仕とは逆の多くのことが話されるという。そしてその巡察において、クリストバル・デ・アルボルノスが多くのワカを発見したということを知っている。これらは先住民が彼らの神として信じていたものであり、また他の多くの罪や悪徳、肉欲を併せ持つものであった。(4)

●証言4 フアン・パロミノ Juan Palomino

彼はその巧知と能力により、巡察したチョコルボス、ソラス、ルカナス、また他の諸レパルティミエントの先住民らの間にタキ・オンゴ、またの名をアイラと言う先住民の間で守られていたセクトや背教を暴いた。先住民の多くはセクトの教えを広め、神や戒律を信じず、十字架や聖像も崇めず、教会にも立ち入らないよう命じた。我らの主たる神への奉仕に抗う多くの忌まわしいこともなされ、多くの老若男女を惹きつけていた。(4)

この管区の多くの先住民らが自らの罪や過ちについて訴え出たと言うのを聞いた。我らの主たる神への奉仕に抗い、彼らが保持し、崇めていたワカに関して犯した罪であった。私はこれら全てが、クリストバル・デ・アルボルノスがなした巧知と精励さによるものだと思う。何故なら、私のレパルティミエントにおいて巡察が行われていなくとも、彼らのもつ不安により、また他の諸レパルティミエントにて行われた巡察により、先住民らは自らの保持していた多くのワカを明らかにしたためである。(5)

先住民らがワカを自らの神として、創造主として守っていたが、クリストバル・デ・アルボルノスの優れた巧知により全てが明らかにされ、自ら訴え出たことを知っている。(6)

クリストバル・デ・アルボルノスがこの町の諸管区の先住民らに対して行った巡察において、先住民らが享受し得る優れた善行の一つがもたらされた。これはクリストバル・デ・アルボルノスが行った巡察において、先住民らが、我らの主たる神に抗い用いていた悪行、慣習、儀式が暴かれたことによる。(8)

私は、クリストバル・デ・アルボルノスはその巡察において、占い師、魔術師、予言者、近親婚の者らその他大勢を、優れた賢明さでふさわしいやり方で罰し、さらにこれが多くの苦勞を伴うものであったと言うことを聞いた。(9)

●証言5 ペドロ・デ・コントララス Pedro de Contreras

これらは、先住民らの間でタキ・オンゴと呼ばれ、守られてきたもので、またの名をアイラと言う。先住民の多くは、別の者らに対し、神もその戒律も信じず、十字架や聖像も崇めず、教会にも立ち入らないよう、司祭らでなく彼らに告解するよう、インカの時代に即した慣習や儀式に基づき断食をするよう教えを広め、命じた。私は、前述のことがインカの時代に行われ習わしとした異教徒や慣習に息づいていたと思う。そして神によって、前述のセクトを発見せしめ、クリストバル・デ・アルボルノスはその主たる原因であったと私は思う。何故なら、ワマンガ市民フアン・デ・マニュエコのレパルティミエントから、女性のインディオ数名がその巡察使に慈悲を乞いに来るのを見たからである。彼女らには、聖マリア、聖マリア・マグダレナ、また他の聖人の名が付けられていた。これは聖人として崇められるため、そのように名付けられたものである³(4)。

先住民らは自らの幸福や救済を知りつつあったので、私が、その巡察使と彼らとの良き仲介者であるようにと告げに来た。何故なら、彼らは自らの意志で、我らの主たる神に抗い犯した欠点や過ちを、また彼らが守ってきたワカを、見つけられたがったからである。(4) その巡察において、自らの神や創造主として先住民らが崇め、たくさんの家畜や他の物を供えていた非常に多くのワカを暴いた。私はそれらの幾つかを目にし、それを明らかにし、慈悲を乞うた先住民らも見た。人々が私に言うには、クリストバル・デ・アルボルノスはこれらのワカを破壊し、燃やし、慈悲を持って罪を犯した者たちを罰した。(6)

●証言6 ディエゴ・デ・ロマニ Diego de Romani.

これらは先住民らにタキ・オンゴとして守られていたものであり、またの名をアイラと言った。これが先住民らの間で広められ、神もその戒律も信じず、十字架や聖像も信じず、教会にも立ち入らず、聖職者らでなく彼らに告解するよう命じたことは明らかである。また彼らのやり方で、或る数日、或る断食を行い、塩もトウガラシもトウモロコシも食わず、女性との性的関係をもたず、体の力が抜けるチチャ酒を飲むだけが許された。そして自らの神を崇め、リヤマ肉や他のものを捧げ、また彼らの崇めるワカや神の名において、何者かが説教をしに来た。これらのワカは、キリスト教の神を打ち負かしたとされ、彼らのミタも、他の多くの事柄も、また血縁の悪習も既に終わった。私は、そのセクトや背教に通じる6~7人のインディオの若い男女を実際に目にした。彼らは間抜けな様子で歩き、判断力を失ったかのような人間であった。これら全てを、クリストバル・デ・アルボルノスはその優れた巧知で見つけ、根絶した。多くのレパルティミエントにて多くのカシーケ、インディオらは、偶像崇拝を知っていた。(4)

私は、フアン・デ・マニュエコのレパルティミエントにて、クリストバル・デ・アルボルノスが先住民の女性数名を見つけたのを知っている。彼女らは、聖人となり、聖マリア

やマグダレナ、また他の聖人の名を名乗っていた。クリストバル・デ・アルボルノスは、我らの主への奉仕に抗い犯していた彼女らの過ちを咎め、ふさわしいように罰した。(4)

クリストバル・デ・アルボルノスはその巡察においてかなりの数のワカを暴いたことを知っている。何故なら私は、ワカが暴かれた時、多くのワカを見たからである。先住民らはワカを神として、また創造主と思い、家畜、金銀、衣服やその他の物を供えていた。クリストバル・デ・アルボルノスはこれらのワカを公然と燃やし、破壊した。慈悲をもって、ワカを保持していた先住民らを罰した。改心を願い、そのことを彼らは約束した。多くのインディオが他の多くのワカを明らかにし、自らの罪を告げ、救済を求めに来た。(6)

前述の罪人に加えて、クリストバル・デ・アルボルノスは、占い師や予言者、呪術師、内縁関係である者たち、夫婦、近親相姦である者たちなど罪人もそれに適した形で罰した。これには多大な労力を要した。(9)

●証言 7 フアン・デ・マニェエコ Juan de Mañueco

先住民らの間でタキ・オンゴとして守られてきたものであり、またの名をアイラという。私のエンコミエンダのあるカシーケは、2人のインディオを見つけた。そして彼らを説教し、ワマンガ市に連れてきて罰せられた。(4)

クリストバル・デ・アルボルノスが巡察にて前述のセクトを見つけたことに加え、先住民らが守り、崇めていた大量のワカを暴いたことを知っている。そして彼はワカを燃やし、破壊した。クリストバル・デ・アルボルノスが巡察にて発見した多くのワカの像を目にした。またそれらを崇め、守っていた者らを、彼が慈悲と節度をもって罰したと言われるのを聞いた。また巡察使の信仰心によって、他のインディオらが先に述べたような他の多くのワカを見つけたのを目にした。(6)

インディオらが私に『ご主人様。私はこの罪を犯したので、巡察使に、私を良く取り成してください。』と言いに来たのである。(8)

●証言 8 アントニオ・デ・オレ Antonio de Oré

これらは、先住民らの間でタキ・オンゴと呼ばれ、守られてきたもので、またの名をアイラと言った。先住民らの多くは、彼らのもとに集まった他の者たちに、神もその戒律も信じず、十字架や聖像も崇めず、教会にも立ち入らず、司祭らには告解せず、インカの時代に行っていた慣習や儀式に合わせ断食をし、供物を捧げるよう教えを広め命じた。全てにおいて福音の法を作り、彼らの法螺話を用いて、忌まわしいことや過ちを続けてはいるが、既にキリスト教徒である者たちを説き伏せようとしていた。クリストバル・デ・アルボルノスは、身の毛のよだつとも忌まわしいことを暴いた。これらは、そのようなインディオらが、聞いたがっている者らに説いて回るものであった。(4)

クリストバル・デ・アルボルノスとヘロニモ・マルティン神父が、その巡察を行い大量のワカを見つけたと、私は彼らから聞いた。同じ事を多くの人々が言うのを聞いた。その内のひとは、ワマンガ市の修道女たちの司教総代理にあたるフランシスコ・デ・サモラ師である。彼らはワカを燃やし、破壊した。(6)

クリストバル・デ・アルボルノスはワマンガ市の管区にて行った巡察において、彼は我らの主たる神への奉仕を為し、悔悛のために先住民らを恐れおおのかせたとする。彼らがそれほど悪人でなければ、前述の忌まわしいことや偶像崇拜を再び繰り返さないだろう。(8)

クリストバル・デ・アルボルノスが男女の呪術師、先住民らの間に蔓延していた他の悪弊や悪い習慣を罰するのを目にした。(9)

●証言 9 ディエゴ・デ・アブレゴ司祭 Diego de Abrego, cura y vicario.

これらは、先住民らの間でタキ・オンゴと呼ばれ、守られてきたもので、またの名をアイラと言う。先住民らの多くは、他の者らに教えを広め、神もその戒律も信じず、十字架や聖像も崇めず、教会にも立ち入らず、司祭らでなく彼らに告解するよう、インカの時代に習わしであったやり方で或る断食をするよう、彼らを崇め、リヤマ肉やその他のものを供えるよう命じた。彼らは自らのワカや神の名を語り説教しにやって来た。我々のワカは、既にキリスト教徒らの神を打ち負かした。彼らのミタ、彼らの間に広まった我らの主たる神への大いなる罪である多くの事は既に終わった。そのように、前述のセクトや背教、そしてアイラは先住民らの間で守られた。その全てをクリストバル・デ・アルボルノスは暴いた。大勢の先住民らはそれらに改宗し、守り、信じていた。(4)

クリストバル・デ・アルボルノスがワマンガ市及び諸管区にて巡察した諸レパルティミエントや地方全域で、いかなる偶像崇拜も、ワカも、祭壇も、供物も、また先住民らが習わしとした他の事柄も悪弊も今はないものと理解している。クリストバル・デ・アルボルノスが、あるレパルティミエントを巡察しに訪れた際、クリストバル・デ・アルボルノスが授けた良き巧知やキリスト教信仰、先住民らが彼に抱いた愛によって、先住民たちは自らのワカや祭壇、神に抗い犯した罪を述べるためにやって来た。彼らは慈悲を願うためにひざまずいた。(4)

クリストバル・デ・アルボルノスがこの巡察で与えた良き指導や敬虔さにより、多くの有力な男女のカシーケたちが、何の報いもないのに、自らの意志で私や教会の判事の前にやって来た。自ら訴えて過ちや罪を明らかにし、悔い改めを乞うためであった。(5)

クリストバル・デ・アルボルノスが行った巡察にて暴かれた多くのワカが私に送られてきた。ここに住む先住民らへの見せしめとしてこの地で焼くためであった。また、数人のインディオを私の元に寄こした。彼らを罰し、罪を犯したその先住民らに対し、そうあらねばならぬ教育を施すためであった。(6)

●証言 10 フランシスコ・デ・サモラ司祭 El padre frai Francisco de Çamora, vicario.

私がクリストバル・デ・アルボルノスについて知る事の全ては、フアン・ベラスケス・ベラ・ヌニェスのエンコミエンダにおけるレパルティミエントに属する先住民らへの巡察である。私は当時そのレパルティミエントに行き、そのときクリストバル・デ・アルボルノスはこのレパルティミエントを巡察中であった。そのレパルティミエントにおいて、クリストバル・デ・アルボルノスはセクトや背教を守っていた偶像崇拝者である多くの男女の先住民らを見つけた。これらはタキ・オンゴと呼ばれ、またの名をアイラと言った。先住民らが持つ多くのワカや祭壇は、我らのキリスト教信仰に抗い、総じて有害であった。クリストバル・デ・アルボルノスは先住民らをふさわしいように罰した。クリストバル・デ・アルボルノスが、ハトゥン・ルカナス¹、チョコルボス²のレパルティミエントや他のレパルティミエントにて前述のセクトを暴いたことは、良く知られていた。(4)

アウカラのレパルティミエントだけでも、クリストバル・デ・アルボルノスが 300 以上のワカを暴き、焼いて破壊した。他の諸レパルティミエントにおいても、クリストバル・デ・アルボルノスが多くのワカを見つけたと思う。彼の巧知により、他にもそれ以上の多くのワカが見つけ出され、これら全てが他のものと同様に燃やされ破壊された。(6)

●証言 11 ペドロ・デ・アルモナシド司祭 El dicho frai Pedro de Almonaçid.

これらは、先住民らの間でタキ・オンゴとして守られてきたものであり、またの名をアイラという。このセクトの説教師は他の者に対し、神を信じず、十字架や聖像も崇めず、教会にも立ち入らず、聖職者らでなくそれらに告解するよう義務付けた。ちなみに、これら全てが主なるイエス・キリストへの大いなる侮辱行為であった。また、インカの時代に用いられていた通りに自らの守っているワカや偶像に捧げものをし、かつ崇めるようにも強いた。そしてクリストバル・デ・アルボルノスは、優れた術策やそこで引き出された能力をもって、このセクトの根を取り去った。(4)

前述の聖職者は私に、クリストバル・デ・アルボルノスがこの巡察にてどのように大量のワカを発見したか、またどのように燃やし、破壊したかを告げた。そして私はこの町でそれらの幾らかを目にし、それらの崇拝者を罰した。(6)

●証言 12 フランシスコ・グティエレス司祭 Francisco Gutiérrez, clérigo presbítero.

クリストバル・デ・アルボルノスがワマンガ市にあるアマドール・デ・カブレラのレパルティミエントへ行き、あの地方を巡察するのを見た。(4)

¹ 注釈 36 参照。ルカナス・ララマティ地方を指す。

² 真鍋周三、地図 1、前掲論文、40 頁参照。

これらは、先住民らの間でタキ・オンゴと呼ばれ、守られてきたものであり、またの名をアイラと言う。そのセクトとは、その先住民らの多くが別の者らに教えを広め、神もその戒律も信じず、十字架も聖像も崇めず、教会にも立ち入らず、聖職者らに告解するのではなく、彼らに告解するよう、或る数日は彼らのやり方で断食を行い、塩もトウガラシもトウモロコシも食せず、女性との肉体関係も持たず、チチャ酒のみ飲むように命ずるものだった。それらを崇め、鳥、リヤマ肉、チチャ、その他インカあるいは異教徒の時代に常としていた俗悪で禁じられた物といった先住民らの持ちものを供えるよう命じていた。彼らはチチカカやティアワナコ、他の多くのワカの名を語り説教しにやって来た。これらのワカは既にキリスト教の神を打ち負かし、彼らのミタ、我らの主たる神や陛下への奉仕に抗う無秩序な他の多くの事柄がもはや終わった。そのセクトは皆により乱雑に守られていた。(4)

どのようにそれを知ったかといえ、その先住民らの多くは、彼らが行っていた偶像崇拜や悪弊、過ちや罪について告げるために、自ら私の前にやって来たためである。(5)

●証言 13 コスメ・ベレス・デ・マスエロス司祭 Cosme Vélez de Maçuelos, clérigo presbítero.

これらは、先住民らの間でタキ・オンゴと呼ばれ、守られてきたものであり、またの名をアイラと言う。先住民らの多くは自らの元に集まった他の者たちに、神やその戒律を信じず、十字架や聖像も崇めず、教会にも立ち入らず、司祭や修道士らでなく彼らに告解し、インカの時代に習わしとしたように、ある数日、あるやり方で、その儀式に則った断食を行うよう、前述のセクトの説教師らを崇め、インカの時代の風習であったリヤマ肉や他のものを捧げるよう説教した。彼らはティアワナコやチチカカのワカ、また他の多くのワカの名を語り説教しに来たと語り、理解を与えていた。これらのワカは既にキリスト教の神を打ち負かしたと述べ、これらや多くの迷信などを、他の先住民ら理解させていた。全てが聖なるカトリック信仰に抗っていた。クリストバル・デ・アルボルノスはその巡察において、セクトと背教を見つけた。これは我らの主たる神、陛下への奉仕のため、先住民らの善のため、大変重要な事業であった。(4)

ワマンガ市近郊のアントニオ・デ・オレ、バスコ・サンチェス・デ・ウリョアの両レパルティミエントにて、エルナンド・パロミノのエンコミエンダのあるソラス³にて、クリストバル・デ・アルボルノスが多くの先住民たちを巡察したことを知っている。先住民らは、クリストバル・デ・アルボルノスが彼らに対し用いた慈悲と、その魂の救済のために為された告白を理解した。そのため、多くの先住民らが、巡察使や、レパルティミエントの司祭らの前で、所有していたワカや祭壇を届け出るため、彼等の過ちへの罰を乞うために自らやって来た。彼は慈悲をもって受け入れ、ふさわしく罰した。(5)

³ 次を参照。真鍋周三、地図1、前掲論文、40頁。

●証言 14 ビセンテ・ロレンソ・ブラボ司祭 Vicente Lorenzo Brabo, clérigo presbítero.

先住民らの間でタキ・オンゴとして守られ広められたもので、またの名をアイラと言う。先住民の多くは教えを広め、また他の多くの者たちが彼らに従い、神もその戒律も信じず、十字架や聖像も崇めず、教会にも立ち入らないよう述べ、さらには聖職者らに対して告解せず、言うことも信じず、守らず、ただ彼らだけに告解するよう指示していた。またこれらを信じ、崇めるよう、さらには彼ら説教師たちに対してそれらや他のものを差し出すよう告げていた。これは、彼らがチチカカやティアワナコ、また皆が守っていた他の多くのワカの名で説教しにやって来ていたためである。そして彼らはこれらのワカが既にキリスト教の神に打ち勝ったものとし、その時代は終わったとされた。さらに偽りの説教師は他の多くの悪行や邪説を彼らに理解させ、民衆は彼らを信じ、それに従った。(4)

何故なら私は、クリストバル・デ・アルボルノスはその巡察において大量のワカを発見したのを目にしたからである。先住民らはこれらを崇め、自らの神や創造主として理解していた。彼はこれら全てを燃やし、破壊した。またそれが暴かれるようにクリストバル・デ・アルボルノスが企てた術策によって、私はワマンガ市の住人ドン・ルイス・デ・トレド・ピメンテルのレパルティミエントにて 250 ものワカを発見した。そして私がこれらの罪に対して行った報告により、クリストバル・デ・アルボルノスはこれを燃やし、破壊し、罰するに至った。(6)

私はこのように彼が巡察するのを見、またそこで幾らかの首謀者がその事を見過ごしてもらうためにクリストバル・デ・アルボルノスに金や銀を持って行くのを見たため、そのことを知っている。クリストバル・デ・アルボルノスは彼にもたらされる賄賂を暴いて厳しく罰した。(8)

クリストバル・デ・アルボルノスはその巡察にてセクトを発見した以外に、先住民らが多くの方法で犯していた他の過ちや嫌悪すべきことを発見したのを目にした。(9)

●証言 15 ペドロ・バリーガ・コロ司祭 Pedro Barriga Corro, clérigo presbítero.

私は、ララマティのレパルティミエントで、あるワカを見つけていた。ここはクスコ司教座教会首席司祭及び参事会員の出した勅令により、クリストバル・デ・アルボルノスが教理教育を行っていた場所でもあった。またこれは、アイラ・タキ・オンゴというセクトの説教師ファン・チョノなる者を捕らえるためでもあった。そのワカを見つけた際、ファン・チョノが私の元から逃げたため、何故その者が逃げてしまったのかはわからない。(4)

アイラやタキ・オンゴとは、多くの先住民らが崇め、守るものであった。その者らは、自らに従う他の者らに対し、神もその戒律も信じず、十字架や聖像も崇めず、教会にも立ち入らず、聖職者らでなく彼らに告解するよう、彼らのワカを信じ、崇め、肉やその他の

物を供えるよう命じた。前述のセクトの説教師らは、他のインディオらに喩えを述べた。「我々の言うことが本当なのかを見てみたいと思うのだろう。よろしいか、洗礼を受けた者たちもそうでない者たちも、みな教会に入っているではないか。キリスト教徒の言うことがまさに真実ならば、洗礼を受けていない者たちは教会に入ることが出来ないだろう。」そして前述の説教師たちや他の呪術師たちは自らの悪事を働いた。彼らは家のなかに十字架を立てて片隅に置いた。そのような説教師や呪術師たちはその家のなかで自らのワカと話した。ワカが説教師たちにどう答えたのかといえば、「おまえたちには、この棒きれが十字架に代わって話をしないものとして見えている。我々に話しかけるのは、我らの神や創造主であり、我々は崇め、信じなければならぬ。キリスト教徒が我々に説教するその他のことは、たわごとである⁴。」私がこのことを知ったのは、自ら調べ、複数の証人を得たためであった。(4)

前述のクリストバル・デ・アルボルノスは巡察を進め、そのセクトの大勢の説教師や他の多くの呪術師を発見した。その数については知らないが、とにかく多数であった。(4)

クリストバル・デ・アルボルノスは、数についてはわからないが、その巡察でかなりの量のワカを発見した。先住民らは自らの神として、また創造主として崇め、金銀、衣服やその他の物を捧げていた。前述のクリストバル・デ・アルボルノスは、慈悲深くこれらのワカを燃やし、破壊した。(6)

先住民や夫婦について、クリストバル・デ・アルボルノスが巡察でそのように行ったことを、ヘロニモ・マルティン神父から受けた手紙により理解した。(9)

●証言 16 バルトロメ・ムニョス・デ・アルバル司祭 Bartolomé Muñoz Alvar, clérigo presbítero.

これらは先住民らの間でタキ・オンゴとして論され、守られていたもので、またの名をアイラと言う。そのことにおいて、彼は我らの主たる神へ大いに奉仕した。何故なら、先住民らの多くは別の者らにそのセクトを説教し、惹きつけていた。神もその戒律も信じず、十字架や聖像も崇めず、教会に入らず、司祭らでなく彼らに告解するよう、説教師ら自身や、説教師らが名を語るそれらのワカを信じ、崇めるよう、インカの時代に行っていた他の慣習や儀式を行うよう命じた。(4)

クリストバル・デ・アルボルノスが行っていた優れた巡察によって、巡察があったキリスト教の管区では、私が受け持つレパルティミエントにいる多くのインディオの男女らが、巡察以前に保っていたワカや悪弊を届け出るためやってくるのを見た。その巡察使が慈悲を持って彼らを罰するのを見た。同様のことは他の多くのレパルティミエントにおいても起こり、先住民らは、悔い改めを約束したと言われるのを聞いた。(5)

その巡察使が巡察において大量のワカを発見し、崇拜者らを罰し、ワカを燃やし破壊したということ、ヘロニモ・マルティン神父や他の多くの人々から聞いた。(6)

●証言 17 フアン・マルティン司祭 Juan Marín, clérigo presbítero.

私がいるレパルティミエントや布教村に近い、ディエゴ・ガビランのエンコミエンダの村にて、クリストバル・デ・アルボルノスは、村の全員が背教者となり、かつての儀式に則り崇めるのを見つけた。(7)

●証言 18 ペドロ・デ・ブラド司祭 Pedro de Prado, clérigo presbítero.

彼が巡察した最初のレパルティミエントは、この町から近いペドロ・ディアス・デ・ロハスのもので、150名もの呪術師、先住民の間にはびこる他の悪弊を暴き、慈悲深く罪の度合いに応じて罰した。次に赴いたレパルティミエントは、私が現在司祭を務めるディエゴ・ガビランのものである。クリストバル・デ・アルボルノスの優れた説教や教理教育により、前述のレパルティミエントの村で暴いたのは、キリスト教徒であったはずの先住民らが、みな偶像崇拜を行っていた事であった。クリストバル・デ・アルボルノスは優れた巧知によりこれを発見した。私はこの村の先住民らが全員、その巡察使の前にひざまずいて慈悲を乞うのを見た。(4)

また、クリストバル・デ・アルボルノスはそのレパルティミエントにて多くのことを見つけた。一親等や二親等での近親婚の夫婦などである。彼はその罪人らを罰した。神への奉仕に抗い罪を犯した他の多くの事柄についても懲らしめた。(4)

また他の多くの諸レパルティミエントで行った巡察においても、クリストバル・デ・アルボルノスが先住民らの間にセクトや背教を見つけたことは良く知られたことである。これらは彼らの間でタキ・オンゴ、またの名をアイラと言いつけられていたものであった。クリストバル・デ・アルボルノスはこれを見つけ、把握した最初の人物であった。私は公なこととして、司教座教会首席司祭及び参事会員が布教村の聖職者らに送った勅令によって、この事を知っている。前述のセクトの説教師らが、その者らを崇める前述の諸レパルティミエントに立ち寄ったかどうかを報告するための勅令には、クリストバル・デ・アルボルノスはそのセクトを見つけた者であることや、他に質問内容にあること全てが書いてあった。(4)

●証言 19 エルナン・ヒメネス・ビリャヌエバ司祭 El padre Hernán Ximénez Villanueva, clérigo presbítero.

私は、ルカナス・アンダマルカスのレパルティミエントの司祭をしており、クリストバル・デ・アルボルノスはそのレパルティミエントにて先住民らを巡察しているのを見た。多くの先住民らは彼の前にやって来ては、神に抗い犯していた罪の数々、偶像崇拜やワカ

を、行っていた他の悪弊を自ら訴えた。クリストバル・デ・アルボルノスは、大いなる慈悲で受け入れ、ふさわしい罰を科して、先住民らは自らの生活の悔い改めを約束した。同様のことが他の諸レパルティエメントでもあったと言われるのを聞いた。(5)

『功績報告書』〔1577年、クスコ市〕⁵

●証言 20 ルイス・デ・オルベラ神父 padre Luis de Olvera, clérigo presbítero, cura.

大きな徳や多くの模範が生み出されたこの地にて、巡察により先住民らが崇めていた神とされる大量のワカを破壊したものである。この状態は、既にキリスト教徒であるインディオの中にも容易に見られた。そしてこれらの偶像は焼かれ、破壊され、同様にこれら偶像の祭司も集められ、罰せられた。彼らは、既に改宗した者らに対して、より大きな害悪であった。彼はイエス・キリストに関する知識を彼らに与えた。前述の巡察において聖堂参事会員クリストバル・デ・アルボルノスは、その地に住むインディオらの間で、全土に蔓延していた新たなセクトを探し当てた。これはタキ・オンゴイと呼ばれ、たいていはインディオらに次のように信じられた。キリスト教徒が燃やし、破壊した王国中の全てのワカは、蘇り、二手に分かれている。一方はパチャカマのワカ、もう一方はチチカカのワカである。この2つは王国の主要なワカであった。またこれらは、我らの主たる神に戦いを挑むために集められたものでもあった。ワカは既に打ち勝ち、この地のスペイン人たちは直ちに死んでしまうだろう。何故なら、ワカがスペイン人を病気で皆殺しにするよう命じたからである。全てのワカはインディオたちに対しても怒り狂っていた。彼らが既にキリスト教徒に改宗したからである。もしインディオらが病気にかからず死ぬこともなく、すべての健康と繁栄を求めるなら、かつて受け入れたキリスト教を棄て、洗礼名を名乗らず、カスティーリャのものを食べず、身につけずにいるよう命じた。また彼らは、〔キリスト教の神である〕ディオスがカスティーリャ産のもの、スペイン人、カスティーリャで育った食糧や物を作る力をもつと信じていた。逆にワカはこの地で作られるもの、インディオ、この地で育った食糧や物を作る力があると信じていた。そしてピサロ侯爵がカハマルカに入ったとき、彼はインディオらに打ち勝ち、この王国を統治した。これは、そのときディオスがワカに打ち勝ったからである。しかしまやディオスに戦いを挑み、打ち負かすために、全てのワカが蘇った。それらのワカはもはやインカの時代のように石や木や泉に宿るのでなく、インディオらの体に入り込み、彼らに喋らせていた。そこから、彼らは震え出して、体内にワカが宿っていることを述べた。彼らの多くは顔を赤く塗られ⁶、囲いに入れられた。インディオらはそこに、体内に入り込んだというそのようなワカや偶像を崇めに行った。そして彼らにリヤマ肉や服や銀、トウモロコシやその他多くのものを供えていた。このように彼らは、我らの主たる神や我らのキリスト教に抗うかなり嫌悪すべき事を論じていた。これらは細々としたことであるため、ここで記されない。これについては、

私が前述のパリナコチャ地方にて目にし、その様であると理解したため知っていることである。また、これを自らの立場において 64 年(1564 年)に矯正した。その地で報告書を作成し、前述の過ちと背教が王国中に蔓延していたことを了解した⁷。これに関して、前述の聖堂参事会員クリストバル・デ・アルボルノスが巡察したそれらの地方では、インディオらがまさにその背教を守り続けている事実を探し当てたのを目にした。そして彼は我らの主たる神への奉仕が鳴りをひそめたあらゆる場所での巡察を続け、また彼が巡察した全ての地域において、悔い改めやその行為が収まっていないのを確認した。彼は、我らの主たる神への奉仕として、多くのワカや偶像を燃やし、それらの祭司を見つけ出して罰した。聖堂参事会員クリストバル・デ・アルボルノスがこれを行った時期に私は既に同市に赴き、居住していたためにこのことを知っている⁸。(3)

●証言 21 ドン・フランシスコ・トスカノ助祭長 don Francisco Toscano, arçediano.

私はロス・レイエス市からやって来たときに、巡察を行う前述の聖堂参事会員に会った。かなり信用のおけることとして、彼がワマンガ市の管区にて大量のワカを破壊したということを知っている。(3)

私は、クリストバル・デ・アルボルノスがチンチャイスーヨ地方を訪ねたとされることを知っている。これは、副王ドン・フランシスコ・デ・トレド閣下が彼を指名したことによるものである。彼は、インディオの村々におけるレドゥクシオンや入植に都合のよい全てのことを行った。これは、ワカや偶像を破壊し、我らの主たる神への奉仕に関わることを強制するものであったが、そのことにおいて、同様に陛下への奉仕をなした。(4)

●証言 22 ドン・ゴメス・デ・トルドヤ don Gómez de Tordoya

その巡察において、この司教区におけるインディオらの偶像や祭壇であるワカを大量に破壊したと言われるのを私は聞いた。彼らの忌まわしいことを正し、改め、遠ざけ、我らの主たる神への理解に彼らを引きつけるのに努めた。前述の偶像の祭司や偶像崇拜の主導者と同様、タキ・オンゴイと呼ばれる新しい背教に特に関わったカシーケやインディオらもその対象となった。このタキ・オンゴイとは当時王国中で波及した背教であった。(3)

何故なら私は、この王国の副王であるドン・フランシスコ・デ・トレド閣下が、聖堂参事会員クリストバル・デ・アルボルノスの能力や適性、権力について理解し、彼をそのような巡察使として指名し、その巡察においてかなりの成果をあげたのを目にしたからである。これは、ワカを破壊し、偶像を罰し、先住民らに対するレドゥクシオンの指示を出すなどしたことによる。(4)

●証言 23 クリストバル・ヒメネス司祭 Cristóbal Ximénez, clérigo presbítero, cura.

彼はこの巡察にて大量のワカを破壊した。これらは大きな徳や多くの模範が生み出されるこの地でインディオらが崇めていた神であった。私は、キリスト教徒であったインディオらが、いともたやすく偶像を燃やし、破壊するのを見た。また、彼はこれらの偶像の祭司を捕らえ、罰した。その者たちは、既に改宗した者らに対してより大きな害悪であった。聖堂参事会員クリストバル・デ・アルボルノスは、この巡察にて我らの主についての知識をもたらし、新たなセクトを探し当てた。これはタキ・オンゴイと呼ばれ、インディオらの間に全土で広められていたものであった。たいていはインディオらに次のように信じられた。キリスト教徒が燃やし、破壊した王国中の全てのワカは、蘇り、二手に分かれている。一方はパチャカマのワカ、もう一方はチチカカのワカである。この2つは主要なワカであった。またこれらは、我らの主たる神に戦いを挑むために集められたものでもあった。ワカは既に打ち勝ち、この地のスペイン人たちは直ちに死んでしまうだろう。何故なら、キリスト教徒となったインディオらに怒り狂う全てのワカに対して、スペイン人を病気で皆殺しにするよう命じたからである。もしインディオらが病気にかからず死ぬこともなく、すべての健康と繁栄を求めるなら、かつて受け入れたキリスト教を棄て、洗礼名を名乗らず、カスティーリャのものを食べず、身につけずにいるよう命じた。また彼らは、〔キリスト教の神である〕ディオスがカスティーリャ産のもの、スペイン人、カスティーリャで育った食糧を作る力を持ち、逆にワカはこの地で作られるもの、インディオ、この地で育った食糧や物を作る力があると信じていた。そしてピサロ侯爵がカハマルカに入ったとき、彼はインディオらに打ち勝ち、この王国を統治した。これは、ディオスがワカに打ち勝ったからである。しかしいまやディオスに戦いを挑み、打ち負かすために、全てのワカが蘇った。それらのワカはもはやインカの時代のように石や木や泉に宿るのでなく、インディオらの体に入り込み、彼らに喋らせていた。そこから、彼らは震え出して、体内にワカが宿っていることを述べた。彼らの多くは顔を赤く塗られ、囲いに入れられた。インディオらはそこに、体内に入り込んだというそのようなワカや偶像を崇めに行った。そして彼らにリヤマ肉や服や銀、トウモロコシやその他多くのものを供えていた。このように彼らは、我らの主たる神や我らのキリスト教に抗うかなり嫌悪すべき事を論じていた。これらは細々としたことであるため、ここで記されない。これに関して私は、前述の聖堂参事会員クリストバル・デ・アルボルノスが巡察したその地方で、インディオたちがまさにその背教を守り続けている事実を探し当てたのを目にした。そして彼は我らの主たる神への奉仕が鳴りをひそめたあらゆる場所での巡察を続け、暴きつつあった多くのワカや偶像を燃やし、それらの祭司を罰した。聖堂参事会員クリストバル・デ・アルボルノスがこれを行った時期に私は同市に滞在し、それらのインディオの多くがそのセクトのため、その説教師として罰せられるのを見たために私はこのことを知っている。(3)

●証言 24 ペロ・ムニス神父 padre el maestro Pero Muñiz, clérigo presbítero, cura.

ソラスでは、インディオたちから悪習や偶像崇拜を根絶しようと熱心に努めていた。この聖堂参事会員の指示により、インディオらが崇め、また彼の熱心さにより発見された多くのワカを、彼が公然と焼くのを見た。(3)

また同様にあの時期、幾人かのインディオによりこの王国に広められたタキ・オンゴイというある異端や背教を、聖堂参事会員クリストバル・デ・アルボルノスが発見したと言われるのを聞いた。これにより我らの主たる神は大いに奉仕され、またこれは、これら先住民らの改宗において、唯一の救済手段であったとされる。(3)

●証言 25 マルティン・ドルモス Martín Dolmos

彼はインディオらを罰し、彼らをその悪習や偶像崇拜から遠ざけた。特にタキ・オンゴイと言う新しい背教については、多くの呪術師を罰し、我々の聖なるカトリック信仰の中にインディオらを組み入れた。(3)

彼はレドクシオンを指示し、偶像崇拜や儀式を行っていたインディオらを罰し、これにより我らの主や陛下に対する多くの奉仕を行った。(4)

『功績報告書』〔1584年、クスコ市〕

●証言 26 セバスティアン・エルナンデス・デ・エスピノサ司祭 Sebastián Hernández de Espinosa, clérigo presbítero cura.

彼をこの王国の最も主要な地方であり、最も多くのインディオたちが住むチンチャイスーヨ地方の巡察使として任命した。その巡察において、前述の聖堂参事会員はインディオらの数を減らし、その全域を矯正した。そしてそこに教理教育を施し、多くのワカを破壊し、取り去った。(4)

その巡察を通してカトリック信仰が賛美され、全ての悪弊やワカや神殿、インディオらが所有していた著しい鉄製品が取り除かれた。(4)

聖堂参事会員クリストバル・デ・アルボルノスは、ドン・フランシスコ・デ・トレド閣下により指名され巡察使となる前に、この司教区の最も主要な地方を巡察した。これらは、アレキパやワマンガ、コンデスーヨといった地方であった。そこで彼はワカを一掃し、悪魔の神殿を破壊し、先住民らの改宗において多くの成果をあげた。ここでは悪魔が奉仕され、主なるイエス・キリストは侮辱されていた。(6)

私は、質問にある多くの地方を巡察し、前述の聖堂参事会員がその地方にあった全てのワカや神殿を一掃し、破壊するよう働きかけたところに出くわした。(7)

私は、前述の聖堂参事会員クリストバル・デ・アルボルノスが、タキ・オンゴと呼ばれ

るセクトや背教を発見し、明るみに出した最初の人物であることを知っている。この背教では、先住民らが円形に踊り、その踊りの中で悪魔やワカや偶像に祈願し、他の迷信を実行し、イエス・キリストの真なる信仰やキリスト教の教義、キリスト教徒の教えを棄て、背教するものであった⁹。前述の聖堂参事会員は、我らの主たる神や陛下への貢献に対し大変熱心に奉仕し、持ち前の精励さでもって、前述の悪いセクトを取り去り、破壊し、首謀者を罰した。(8)

●証言 27 マンシオ・シエラ・デ・レギサモ Mansio Sierra de Leguisamo

聖堂参事会員クリストバル・デ・アルボルノスは、持ち前の精励さでもって、タキオンゴと呼ばれるセクトと背教を明るみに出した。ここでは先住民らが踊り、キリスト教徒や聖職者たちの教えを棄てていた。このセクトは全土に蔓延していた。(8)

●証言者 28 ペドロ・デ・ミランダ Pedro de Miranda

また私は、概して先住民が互いに、また公におしゃべりをし、次のように述べていたのを見た。「アルボルノス様は、確かにワカを探し当てた (*Albornozmi payllami indiokunapa wakanta atipan¹⁰*)。これは、次のことを言おうとしていた。「アルボルノスのみがこれを打ち破り、全てのワカやインディオらの偶像を破壊した。」。(8)

●証言 29 ホアン・デ・アンドゥエサ Joan de Andueza

彼にはチンチャイスーヨ地方が任された。最も重要な4つのスーヨのうち1つであり、この王国にあって最も人口の多い場所であった。私はこの地方にて前述の聖堂参事会員が巡察をし、それが最も重要な巡察であったことを知っている。何故ならそこに、偶像を排除し、先住民らを我らの聖なるカトリック信仰に改宗し、キリスト教の教義を植えつけたためである。彼らはこのカトリック信仰からは疎遠になっており、逆にタキオンゴと呼ばれるセクトや過ちを行使し、またあの悪弊とも言えるセクトに関して説教師やそれを主唱する者が存在した。そして全土にそれが蔓延していた。(4)

●証言 30 ルカス・モレノ・シスネロス Lucas Moreno Cisneros

この聖堂参事会員クリストバル・デ・アルボルノスが、質問の提示する場所で行った最初の巡察について、私はこれらの巡察や取り出された証拠を見た。これにより、インディオらが保持していたワカや偶像崇拜に対して為された破壊行為が把握されたのである。そしてカトリックやキリスト教の優れた方策により、多くの効果をあげ、実際インディオら

を我らの聖なるカトリック信仰のへと引きよせたのであった。このように私は、この時期アルボルノスが巡察したインディオらにより、このことを理解し、認識している。(7)

自らの巧知と優れた熱心さを通して、クリストバル・デ・アルボルノスはインディオらが保持していた悪魔に取り付かれたセクトを根絶した。彼が行った根絶は、大変重要な出来事であった。(8)

(翻訳校正・編集協力 岡崎雅子)

¹Luis Millones(comp.), *El retorno de las huacas: estudios y documentos sobre el Taki Onqoy, siglo XVI*, Instituto de Estudios Peruanos Sociedad Peruana de Psicoanálisis, 1990.

²証人の内、アルボルノスの巡察に公証人として同行したバルトロメ・ベロカル Bartolomé Berrocal, notario apostólico. および通訳のヘロニモ・マルティン神父 padre Gerónimo Martín, clérigo presbítero, cura y vicario. については次で論じているので参照されたい。谷口智子、「クリストバル・デ・アルボルノスの『功績報告書』(1570年)から見るタキ・オンコイ運動」、『愛知県立大学外国語学部紀要(地域研究・国際学編)』第48号、愛知県立大学外国語学部、2016年3月〔刊行予定〕。

³タキ・オンコイの説教師フアン・チョノ(チョクネ)と説教行脚に連れ立たとされる聖マリアや聖マグダレナについて、斎藤晃、『魂の征服 アンデスにおける改宗の政治学』、平凡社、1993年、204頁、ナタン・ワシュテル著、小池佑二訳、『敗者の想像力 インディオのみた新世界征服』、岩波書店、1984年、289頁、などを参照。

⁴次を参照した。斎藤晃、前掲書、201頁。MacCormack, Sabine, *Religion in the Andes: Vision and Imagination in Early Colonial Peru*, Princeton University Press, 1991, p.184.

⁵1577、1584年のクリストバル・デ・モリーナ司祭 Cristóbal de Molina, clérigo presbítero. の証言については次で論じているので参照されたい。谷口智子、「クリストバル・デ・モリーナのタキ・オンコイに関する証言」、『愛知県立大学大学院国際文化研究科論集』第17号、2016年3月〔刊行予定〕。

⁶tomavan y pintavan los rostros con color colorada. ペルーの歴史学者バロンによれば、ケチュア語でリンピ(*llimpi*)と呼ばれる、水銀の主な原料である辰砂を、タキ・オンコイの儀式で用いたとする。リンピについては年代記作者ガルシラーソ・デ・ラ・ベীগが『インカ皇統記』のなかで記している。Rafael Varón Gabai, “El Taki Onqoy: las raíces andinas de un fenómeno colonial”, en *El retorno de las huacas*, p.394. インカ・ガルシラーソ・デ・ラ・ベীগ著、牛島信明訳、『インカ皇統記』、岩波書店、2006年、4巻、163-165頁。真鍋周三、「16世紀ペルーにおけるタキ・オンコイの政治・社会的背景をめぐる試論」、『ラテンアメリカ・カリブ研究』22号、つくばラテンアメリカ・カリブ研究会、2015年、54頁。

⁷オルベラ神父とヒメネス神父の証言はほぼ同じ内容であるが、下線部はオルベラ独自のものである。文中にある1564年とはオルベラがタキ・オンコイを発見し記録したとされる年であり、報告書とは、モリーナが『インカの神話と儀礼の報告書(Relación de las fábulas y ritos de los Incas)』を執筆した際、参考にしたものと思われる。Gabriela Ramos, “Politica eclesiastica y exirrpacion de la idolatria: discursos y silencios en torno al Taqui Onqoy”, en *Revista Andina*, n.10(1), 1992, pp.157-159.

⁸次を参照した。溝田のぞみ、「先住民の抵抗：蘇るワカ」、染田秀藤・篠原愛人監修、『ラテンアメリカの歴史』、世界思想社、2005年、224-225頁。

⁹タキ・オンコイの踊りに関する証言は1584年にのみみられる。

¹⁰Cristóbal de Albornoz, Luis Millones(comp.), *Taki onqoy: de la enfermedad del canto a la epidemia: Fuentes para el Estudio de la Colonia IV*, Centro de Investigaciones Barros Arana, DIBAM, 2007, p.56.